



がんばりすぎないこと

「読書の秋」になったから、という訳ではありませんが、コロナで自粛生活を余儀なくされていた頃から、家にいる時によく本を読みました。好んで読んだのはエッセイ集。あまり深く考えず気楽に読めることと、自分がこれからどの方向に向かって進んでいったら良いのか、先輩方の経験を参考に出来るからです。分厚い本から薄い冊子や資料のようなものまで、色々読みました。



お母様方も子育てに関する情報を、本や資料、SNSから仕入れることが多いと思います。私自身もそうでしたが、誰もが苦しみの真ただ中にいる時、何かを求めて、本を読んで答えを見つけようとするのではないのでしょうか。

ここ最近、読んだ書物の中から印象に残ったものをご紹介します。『子育ては「がんばりすぎない』』これは、お茶の水女子大名誉教授の内田伸子先生がある雑誌に書かれたものから抜粋しました。

最近では、お母さんが一人で育児に奮闘する例が多く、思うようにいかないと悩んでいる人が多いようです。「子どもはかわいいはずだと思っていましたが、現実とは違っていた」と子育てのつらさを訴える人が多く、9割のお母さんが「育児をづらいと思うことがある」と答え、「子どもをかわいく思えないことがある」と答えた人が8割弱。その理由として①子どもが思い通りにならない。②子どもの世話で疲れる。③育児に追われて時間や行動に自由がない。④夫が育児に協力しない。⑤情報が氾濫し、どのように子育てをすればよいかわからない。きっと共感する方もいらっしゃると思いますよ。内田先生は、このようにアドバイスしています。『つらい時は「つらい」と声に出して、誰かに寄りかかってみてはいかがでしょうか。子育ては「がんばりすぎない」ことも大切です。』

内田先生の投稿には、さらに共感する部分がありました。『教育は「共育」、そして「協育』』です。今、「イクメン」という言葉はすっかり定着しました。共働き家庭も増えて、若いお父さんが育児に参加するケースも増えています。でも忙しいお父さんはなかなか育児に関われないかもしれません。そんな時は「いつもありがとう。」とねぎらいの言葉をかけてあげてください。「育児」は「育自」、「教育」は「共育」で、共に学び成長していくこと、社会と協力して子どもを育てる「協育」でもある、とおっしゃっています。

私もこれまで土曜参観日で、お父様の参加が多い時には、必ず「がんばっているお母様を励ましてあげてくださいね。」と呼びかけてきました。また入園式では「我が園の教育は、子どもたちも先生も共に育つ教育でがんばります。」とお話しています。

子どもにとってご両親の笑顔が一番必要です。「がんばりすぎない」子育てを目指してくださいね。



もうすぐ運動会

今年は新型コロナウイルス感染拡大のため、行事が大幅に変更となりました。日時も場所も変更となり、保護者様には大変ご迷惑をおかけし、本当に申し訳なく思っております。

子どもたちのここ最近の様子を見ておりますと、2学期が始まって幼稚園での生活リズムを取り戻し、運動会の練習も張り切って頑張ってくれています。どの学年も一生懸命力を合わせて、練習を積み重ねてきました。どうぞ、お子様の成長した姿を楽しみにしてお越しください。

さてスポーツの秋。US オープンで優勝した大坂なおみさんは、優勝インタビューで「自分が優勝できたのは、両親やご先祖様のお陰。」と家族に感謝しました。自分がいるのは、先祖代々つながれてきた命。誕生会でいつも話していますが、子どもたちにもしっかり伝えていきたいと思います。特に今年は会場の人数制限があり、各ご家庭の参加は2名までとさせていただきます。参加出来ないご祖父母様もみえるかもしれませんが、当日のお孫さんの活躍ぶりは、後ほどのご報告を楽しみにお待ちください。